

中央大学の社会連携と社会貢献に関する理念が確定しました

中央大学は、これまで、「広く知識を授け、深く専門の理論および応用を教授・研究し、もって個性ゆたかな人間の育成を期するとともに、文化の創造・発展と、社会・人類の福祉に貢献することを使命」（中央大学学則第2条）として、建学の精神である「實地應用ノ素ヲ養フ」教育と研究を発展させるとともに、これら教育研究活動を通じて、広く社会に貢献することに努めてきました。今日においても、中央大学が求められている基本的な役割とは、教育研究を広く展開し、中央大学で学んだ有為な人物を社会に送り出すことと、その研究成果をもって社会を豊かにすることにあります。

しかしながら、私たち中央大学には、こうした教育研究活動の成果をもって社会に貢献することのみならず、新たな役割として、その教育研究活動自体を社会のなかで、社会の



社会連携・社会貢献連絡WGのようす

要請に応えて、社会と協働して行うこと、さらには、長い歴史と伝統のなかで蓄積された知的・人的・物的な資産と多様な年齢構成と背景を有する3万もの学生および教職員を擁する大学組織市民として、社会に開かれた活動を行うことが、求められています。大学が新たな役割を担うことで、新たな価値が生み出されます。この新たな価値は、学生をはじめ大学構成員に還元され、大学がさらに社会

中央大学が展開する社会連携と社会貢献

① 地域等の多様なコミュニティとの連携・貢献

中央大学は、すべての人や組織がそれぞれ異なる環境と文化をもつ様々なコミュニティ、とりわけ地域コミュニティのなかで生きることを自覚し、これらのコミュニティと連携し、これに貢献します。そのために、地域自治体との政策連携、大学の施設と知的資産の活用、学生や教職員のボランティア活動の支援等を通じて、地域をはじめとする多様なコミュニティのニーズに応じた活動を持続的に展開します。

② 教育機関としての社会連携・貢献

中央大学は、教育の過程にも多様なコミュニティとの連携を取り入れ、学生の学びの過程自体が社会貢献となるように、社会からのフィードバックを得ながら、教育活動を行います。特に、留学生交換、教育研究者の派遣と受け入れなどを促進し、多様性のある地球規模での人的・知的交流による相互理解の拠点となることを目指します。

③ 研究機関としての社会連携・貢献

中央大学は、研究活動を大学キャンパスに閉ざすことなく、国内外の研究者や学術研究機関と協働し、また産官学や多様なコミュニティとの信頼に基づく連携を進めます。そして新たな知的基盤形成に向けた環境構築に貢献するとともに、社会が求める多様な知的資産を創出します。

以上に基づき、中央大学は、特に次のように社会連携と社会貢献を展開します。

中央大学はこの「理念」に基づき、大学としての社会連携・社会貢献の活動を深化させることと、すでに本学が行っている様々な社会連携・社会貢献活動に関する情報を集約し社会に向けて発信していくことに努めます。

に開かれた活動を行う源泉となるのです。

そこで中央大学は、大学の本来の使命および機能としての教育研究に加えて、「社会連携」（教育研究活動における中央大学外の人・組織・コミュニティとの協働）と「社会貢献」（地域社会・日本社会・国際社会のみならず、経済社会や文化的コミュニティ等、広い意味での社会全体の発展への寄与）を新たな使命として位置づけ、「行動する知性。

-Knowledge into Action-」のユニバーシティメッセージのもと、人的・物的・組織的体制を整えて取り組みます。また、こうした取り組みによって、本学が展開するキャンパス周辺をはじめとする地域社会や日本社会全般における具体的問題のみならず、人類の抱える地球規模の問題解決に貢献する決意を表明します。

I Rグループの設置について

2014年4月1日付で、学事部企画課にI Rグループが設置されました。

2011年4月1日、大学が公的な教育機関として、社会に対して説明責任を果たすとともに、その教育の質を向上させる観点から公表すべき情報を法令上明確にし、教育情報のいっそうの公表を促進することを目的に、「学校教育法施行規則等の一部を改正する省令」が施行され、大学の情報公表が義務化されました。

情報公表が義務化されると、大学は学内情報の収集・整理・加工をし、一元管理するためにデータベースを構築することが必須となります。これらの活動が、I R (Institutional Research) と言われ、米国の大学で発達してきた機能です。さらに近年では、各種情報を大学間で比較することや情報交換等が活発化するに伴い、I Rの機能が情報管理のみならず、大学改革等に資する情報の分析や、企画・立案といった機能にまで拡充されてきました。

本学においては、このI R機能がなかったわけではなく、毎年次の自己点検・評価活動（学生からの評価分析を含む）をはじめ、アドバイザリーボードによる外部評価、高等教育制度調査、財政検証等、複数の視点から自己分析を行い、本学の改革に資する活動はしてきましたが、既存のI Rが学内の専門分化した組織（学部ごと等）によって行われる傾向が強く、全体としての大学改革基礎資料とし

て活用しづらい面があり、その体制整備については、喫緊の課題でありました。

今般設置したI Rグループでは、それらの機能を充実させ、大学改革に資する情報管理、分析を推進していくとともに、これを本学の内部質保証にも役立てていく予定です。現在、直近の取り組みとして行っているのが、今秋に導入される「大学ポートレート」への対応です。

「大学ポートレート」とは、2011年4月の情報公表の義務化に続き、2012年6月文部科学省の「大学改革実行プラン」に基づき「大学ポートレート（仮称）準備委員会」による検討を経て、2014年10月から稼働されるデータベースを用いた教育情報の活用・公表のための国公立共通のしくみです。本学においても、この「大学ポートレート」に積極的に参加し、大学進学希望者や保護者、進路指導者等に本学の特色や教育研究の取り組みを伝え、多くの教育情報を掲載することによって、本学独自の特色・魅力・強みを公表するとともに、教育情報の活用・公表を通じて、自ら分析を行うことにより、教育・研究の改善、質保証、自己点検、外部評価、F Dの推進等に取り組んでいく予定です。